

のド  
中チ  
黄プ  
卵ペ

# 骨密度低下を抑制

## ファーマフーズ 医薬品展開も

バイオベンチャーのファーマフーズと松下記念病院の山根哲郎院長らは、卵黄に含まれるペプチド(たんぱく質の断片)が骨の形成や分解のバランスなどを改善し、骨密度低下を抑えることを、中高年女性を対象にした比較実験で突き止めた。同社は骨密度改善などを目指す健康補助食品や医薬品への展開を狙う。

骨量や骨密度は女性ホルモンと密接に関係しており、閉経後の高齢女性では、これらの値が低下し、骨粗しょう症の原因

になっていく。研究チームは松下記念病院の倫理審査委員会の承認を得て、40〜60歳の女性70人を対象に試験を実施した。このペプチドは、アミノ酸が約10個連なったオリゴペプチドで、経口で摂取できる。

カルシウムだけを摂取する群と、カルシウムとビタミンDやKも摂取する群、さらにこれらの物質に加えてペプチド1日100ミリグラムとする群の3グループに分けて、6カ月後の変化を見た。カルシウム単独では骨密度が減少。カルシウムとビタミンの併用でも骨を壊す破骨細胞の活動も抑えきれなかった。一方、ペプチドも摂取した場合は破骨細胞の活動が下がったほか、骨密度低下も抑えられた。安全面で問題もなかったという。

従来は細胞やマウスの実験結果だけで、人でのデータはなかった。同社はペプチドを鶏卵から抽出し、健康補助食品向けに一部販売しているが、人工合成技術も開発済み。今後は幅広い展開を目指す。